八会場で大会

大牟田 荒尾の第二メーデー

全逓、全司法、全電通、日教組および国鉄機労などの弾圧反対を中心とした第八次統一行動は、総評では総決起大会および一齊時間外職場大会を決定した。

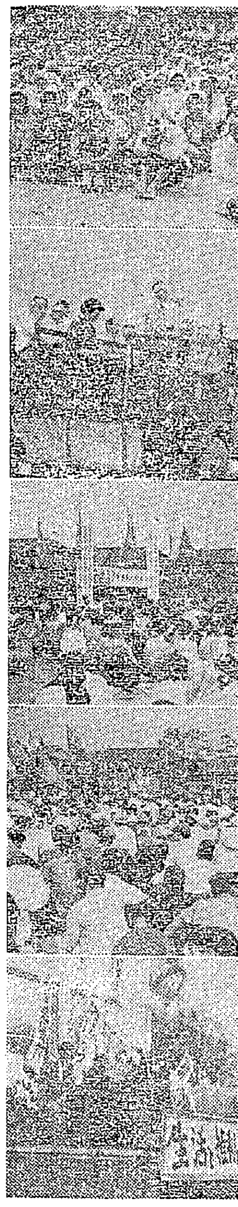
大地評、荒地評では選挙闘争の重大な争点となる炭労の春闘、弾圧反対闘争、勤務評定反対闘争などを推し進めるため〝生活と権利、教育を守る市民総決起大会〟を五月十八日、大牟田六会場、荒尾二会場に分けて、一齊に開催した。

この日大牟田地区は会場を新地公園、三里小学校、天道小学校、高取社宅広場、七夕グラウンド、渡瀬工場グラウンドの七会場に設営した。

一方、荒尾地区では原万田社宅広場、緑ガ丘保育園横広場の二会場に分けて開催した。

この日の参加者約一万六千名、「不当処分に反対、ＩＬＯ条約批准を闘いとろう」「民主教育を守り勤務評定に反対しよう」「炭労闘争、中小労働者の賃上げ闘争をみんなで守ろう」など六項目のスローガンを満場一致で採択、不当処分にあくまで反対し、勤務評定実施反対、炭労ならびに中小労働者の賃上げ闘争支援の強化などを決定した。

この日、各会場には中央よりかけつけた炭労政治局員山本参議、吉田参議などが各会場で激励を行えば、また各会場に同じくかけつけた田中、伊田、稲富候補も挨拶を行い、選挙闘争への決意をのべ、会場より拍手におくられて、街頭へ進出した。なお、この日は各会場ともデモは行わず、県教委、大牟田署へ勤評に関連した組合不当弾圧反対の決議文を採択した。



【写真】上から三里、荒尾原万田、新地公園、七夕グラウンド、渡瀬広場の各会場風景。各地区とも平均二、三千名の出席で、勤評反対、選挙闘争に強い決意を披れきした

けい肺改正法に喜びの患者

阿具根参議囲んで懇談会

さきの解散まぎわに国会通過をみたけい肺改正法案は、参議院阿具根参議ら社会党議員の奔走によって無事通過をみることになったが、これによってけい肺で苦しむ仲間たちを大きく力づける結果となった。衆院総選挙も終盤戦の追込みとなった十九日、選挙応援のため帰山した阿具根参議を迎えて、午後五時より本部大会議室でけい肺患者九十名が出席して懇談会を行った。

現在三鉱内でのけい肺患者は第一症度まで入れて八百四十一名、炭鉱とは切り離せないといわれる業病けい肺の犠牲となって、もだえ苦しんでいるわけである。一時は国会内でさえけい肺というものの知識すら知られていなかったが、炭労政治局員らの活躍によって、けい肺法の制定をみ、また今回の改正法案の国会通過となったのだが、この日、阿具根参議より法案通過までの紆余曲折が国会の舞台裏を通じて詳しく語られた。ついで、今回の法案の骨子について説明を行ったのち、患者との懇談に入った。

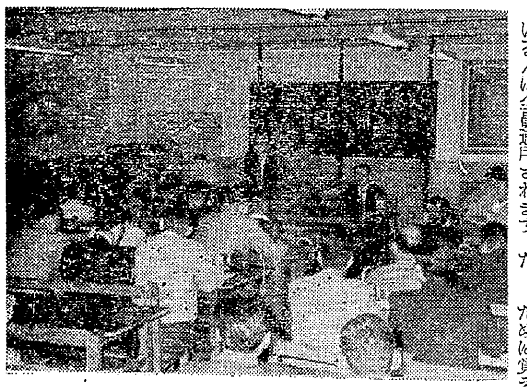
行政官庁に監視を

問　こん回のけい肺改正法のためには大変ご奔走されまして有難うございました。私ども患者は喜びで胸一杯です。法ができても運営の面で行政官庁が自分たちの都合のよいようにする心配はありませんか。

答　行政官庁が自分に都合のよいようにするというのは重要な問題で、こんど私どもが注意して行かなければならないことです。

問　現在二年経過したものはどうなりますか。法の適用をうけられますかどうか。

答　今までけい肺法で適用されている人は全員適用されます。ただこの前に適用されていない人は気の毒ですが駄目ですね。



問　私を始めとして三十年の三月に打切られた人たちは、実に悲惨な生活をしています。法適用の人と較べるとまったくみじめなものがあります。こういう人もいるということも、こんどのために覚えていてください。

答　判ります、その点もいつも考えているのです。二十八年の人も、現在調査を進めています。

これをステップに

この外か休業手当、打切補償など具体的な質疑がつづけられていたが、最後に患者を代表して三川支部の中村氏からつぎのような感謝の言葉が述べられた。

患者を代表して阿具根さん並びに組合の皆さんに感謝の言葉を述べさせていただきます。このたび凡ゆる困難を押切って法案を通過させていただき、われわれの心を明るくさせていただいたことは非常に皆んな喜んでおります。ますます、この法案をより以上に強力に推進していただき、またわれわれを今後もより以上にかばっていただくことを歎願しますとともに、一人でも多く国会にわれわれの力になる人を送ることを誓います

このあと阿具根参議より言葉が返されたのち、不治だといわれたけい肺も、いま日本の科学陣では、医者の恥だと奮起して、担当の人たちが研究に没頭しており、既にいまでは手術ができるという所まで来ているし、新聞やラジオでもけい肺は治すことができると発表しているなど、明るい話題を提供し、けい肺の将来も暗いものではないと激励した。なお、この法案を足がかりとして、将来楽しく暮されるように努力することが誓われ、喜びのうちに散会した。

音楽の贈り物

楽団が病院へ慰問

三川支部楽団「コールマイン」では、昨年度病院見舞で好評を得たが、今年になって初の入院患者へ音楽の贈物をしようと、去る十八日大牟田の曽我病院、銀水園療養所へサークル員一同、見舞行を行った。

病院側のサービスで会場の接待、設備など楽団がつくまえに整えられ、会場には患者さんたちが楽しそうな顔を並べて、ときならぬ音楽の贈りものに、日頃療養のつらさも忘れて、楽しい一日をすごした。

経理Aが優勝

港務所のバレー

港務支部では職場対抗バレー大会を開催、昼休みの一時間を利用して試合をつづけてきたが、優勝戦を二十日の昼休みに本館横のバレーコートで行った。成績はつぎの通り

優勝＝経理Ａ、二位＝人事Ａ、三位＝機電、四位＝港駅の各チーム

スケッチ、美術展

桂町児童部が開催

緑ガ丘桂分会の児童部では、去る五日の子供の日に学童野球大会を開き、小中学生約六十七名の参加で六チームを編成、ＡＢ二パートに分かれて楽しいリクレーションを行ったが、ついで五月十一日には学童スケッチ大会の美術展を催した。

この日は折悪しく曇天というよりも今にも降り出しそうな雨模様であったが、午前九時ごろから、子供たちの作ったテルテル坊主の祈りが実ったのか、青空が見えだした。

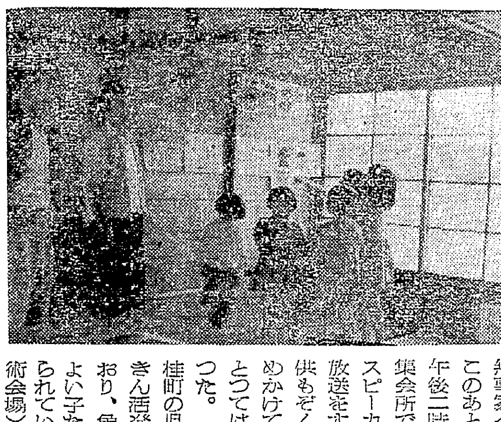
地域分会のマイクが角田児童部長の元気のよい「皆さん日の丸弁当持参して桂町広場にお集りください」と放送されると、待ちかまえていた児童たち百五名が元気に集ってきた。人員点呼ののちスケッチブックを肩に足どりも軽く目的地に着いた。

正午ごろより早速スケッチブックが一齊に開かれて、ペンがクレヨンが画面を走る。書くもの、書き終って日の丸弁当にホホをふくらますもの、みんなが楽しいうれしいの一色であった。

天候が急変してまたもや降り出しそうな空模様となったので、あわてて帰路につく、一部にはスケッチが完成しなかった人もあったが無事家へ着いた。

このあと、完成した絵を午後二時四十分から桂町集会所で美術展を催したスピーカがまた美術展の放送をするや、大人も子供もぞくぞくと会場につめかけてきた。児童部にとっては楽しい一日であった。

桂町の児童部では、さいきん活発な動きを示しており、角田部長を中心によい子たちの勉強が続けられている。（写真は美術会場）



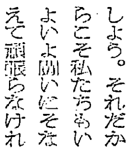
心のヒモ締めて

炭労の賃上げ闘争はほんとうに教宣部が地域で情宣されましたときのように、長期闘争になってしまいました。

私はあの開票のあった二十三日、じつとしておれず、子供たちの騒ぐのも叱りつけてジイツとラジオにかじりつくように聞き入っていましたが得票発表の途中でニュースが行われましたが、そのとき炭労の闘争が述べられました。

「炭労の無期限ストは今日で丁度六十四日目になります…」という放送を聞いてハッとしました。思えばあの六十三日ストは長くて辛いものでしたが、それよりもこんどのは長期を記録したことと。いまさらながらスト決行している山の組合員や主婦たちに、私たちに激励を送らなければと誓ったのです。主人たちがカンパをしているので闘争中だという意欲はあるにしても、ややもするとストをやっていないので闘争ということから離れたような気持になるのは私一人でしょうか？

こんどは会社もなかなか強気だそうです。それには何かの意図があるのでしょう。それだからこそ私たちもいよいよ闘いにそなえて頑張らなければならない、とここらあたりでもう一ふんばり心のヒモを締めなければならないときでしょう。



主婦会のお母さんたち、闘いが終るまでお互いに夫と一緒に頑張りましょう。

（Ｋ主婦）

病をおして投票

当選の陰にこの一票

総選挙もついに終った。革新勢力の躍進が噂されていたが、結果は社会党八名の増、逆に共産党は一名減じた。このことはこんどの問題として職場で地域で真剣な討議が行われるものと思われる。

四山第二十四投票場は、投票率九二、六七％というかつてない好成績で投票が終った。投票数二、三五七名。この好成績をうち立てた中に、絶対安静の体でありながら組織から推した候補者が危いと聞き、夫の肩にすがりつきながら一票を投じた主婦があり、この姿を目前にして投票場の選挙管理委員や立合人はいうに及ばず、地域の間では、この崇高な精神力に賞讃のことばが送られている。

この人は中田久子さん（39＝四山社宅）である。ご主人は中田義信さん（採炭）で組合結成以来の委員をつとめ、職場分会長、地域副分会長と組織のために頑張っている人である。

久子さんは肝臓炎で二十日に絶対安静を医師から申渡され、病床についていたが、二十二日は衆議院選挙投票日。聞くともなしに隣近所の人たちが話合っているのは「田中候補は危なか、ひょっとすると落選バイ」ということばかり。組合でも主婦会でも組織として推薦している人だ。何とかして当選させたい、この際一票でも棄権するのは勿体ないと床の中で思いつくやいても立ってもおれず、投票へ出かける決心をした。

体を心配する家族の人たちの言葉も、もう耳にはいらず、無理矢理主人の自転車に乗せて貰って投票所へと出かけた。投票所へ行っても主人の肩を頼りにやっと一票投ずることができた。ちょうど二、三五六人目で締切り五分前でやっと間に合うことができた。パサリ！と投票箱に落ちた投票用紙の音を聞くとトタンにぐったりして涙があふれてきた。このいたましい姿をみた選挙管理委員、立合人はぼう然としてながめていたが、その気概にうたれてしゅく然としたほどだった。

ともあれ組織で推した三人の候補のうち、一名は無念にも落選したが、大牟田、荒尾地区から推した候補は全員当選することができたことは大きな喜びであり、そのかげには中田さんのような、全く血のにじむような一票があったことも忘れてはならないだろう。

児童作品

音楽会

四年　鈴木英一

（堀進工・鈴木康民氏長男）

きょうは楽しい音楽会です。ぼくは朝九時前に講堂へ行きました。木と木の間に立っていると森君が来ました。そしてほいくえんのリングに乗って遊んでいました。しばらくするとだれかが「おーい先生のならばんねげな」と云って走って来ました。先生が「一回けいこをします」とおっしゃいました。ぼくはすこしがっかりしました。そしてまたしばらく遊んでいました。すると笛が「ピーイ」となりました。ぼくは急いでならびました。先生が「みなさんたちの番ですからならんで待っていましょう」とおっしゃいました。だれかが「先生今何番ですか」といいました。先生は「十四番です」とおっしゃいました。しばらく待っているとぼくはたいくつしました。すると先生が「みなさんの番ですよ」とおっしゃいました。ぼくたちは急いでぶたいへ上りました。

まくがあきました。ぼくはむねがどきどきして、お客さんの方を見ることができませんでした。ぼくは正面のほうをむいていました。すると先生が「れい」とおっしゃいました。みんないっせいにれいをしました。また「なおれ」とおっしゃいました。先生が台へあがられました。さっと先生の方へ向きなおりました。手があがりました。ぼくはハーモニカを口へくわえました。手がおりたのといっしょにモッキンやカスタなどが鳴りだしました。ぼくは目をつぶりそうになりました。すると、ハーモニカやトライがなりだしました。二回くりかえしておわりました。

ぶたいをおりて先生はしばらくして出ていらっしゃいました。そして「みなさんきょうの音楽はよその先生がうしろから見ていて一人もあたまをうごかす人がいなくて、なみだが出るほどよくできました」とおっしゃいましたので、ぼくはとてもうれしくてたまりませんでした。（三川支部四方開発職場機関紙「親交会」四月号より転載）

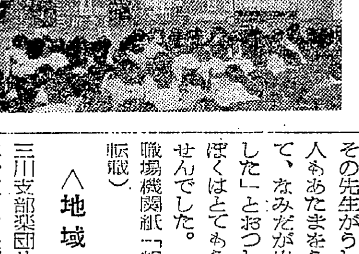
盛大に総会

緑ガ丘主婦会連協

第六回緑ガ丘地区主婦連絡協議会総会は、五月二十日午前十時より緑ガ丘講堂で開催された。

緑ガ丘地区は主婦連協の中でも最大のものだけに、会場はギッシリの満員、万国旗で飾られた会場、正面には主婦会の九本の旗がズラリと立て並べられて、労働者の主婦会にはまさにふさわしい情景をうき出していた。

全員起立、炭婦協のうた合唱ののち、議長団に五島（三川）大河内（四山）石丸（本所）金子（港務）の四氏を選出、議事に入り、熱心な討議を行った。



＜地域だより＞

三川支部楽団サークルでは、来る二十五日労災病院へ音楽の慰問行を行う。同病院には昨年も一度慰問行を行ったが、今年に入ってからは初めてである。